
2017年 第25回JOCジュニアオリンピック大会における出場者制限について

JOCジュニアオリンピック大会も来年で25回を迎えます。この大会で優秀な成績を収め、ジュニアの国際大会にも日本代表として出場し、その後自選難度競技の日本代表となった選手も少なくありません。一昨年からは難度動作を含む国際第三套路が競技種目となり、同時にここ数年は出場者数の増加に伴い、競技日程が大変厳しくなっています。今年の大会ではA組の国際第三套路と、C組の出場者に対して、ブロックでエントリーの人数制限を設けました。来年の大会では以下のようにエントリー制限を設けることをご提案いたします。

これは単に競技時間の短縮ということではなく、以下のような内容を含んでのことです。

- 1) JOCオリンピックカップである以上、出場者は一定以上の技術レベルを持つべきである。
- 2) ブロックでの人数制限が、近い将来ブロック予選の実施という形につながり、ブロックから全国大会へという形が定着することが望ましいと考える。
- 3) 参加者の多すぎる種目では競技時間も長く、2名同時の演武で、およそ2分ごとに次々と打点をしなければならない。このような形では、審判の負担も大きく、競技会として正確な審判を行うことが困難と考えられる。これらのことから次回大会ではABCの各組で下記のような出場制限を設ける。

1) A組の国際第3套路

南関東・近畿ブロックは5名、他の5ブロックは4名とする。

実施種目は来年も徒手と短器械。長器械套路自体が難しいので、様子を見る。今後については、8月の套路講習会等を経て、短器械と長器械を隔年にするか、また、他の種目の制限との関係のなかで3種目実施するかを段階的に検討する。因みに南関東と近畿ではブロック代表を目指す選手は3種目全てのエントリーが求められている。

2) B組の長拳B

南関東・近畿ブロックは7名、他の5ブロックは6名とする。

この種目では多くの選手が同時に短器械・長器械の両方にエントリーしており、大会全体の中に占める時間が大変大きくなっているためである。

3) C組

南関東・近畿ブロックは6名、他の5ブロックは5名とする。同時にJOC大会での2名同時演武を1名ずつに変更する。競技時間は長くなる点に留意。

エントリーについて

24回大会と同様、ブロックで選抜し、その選手が各県連からエントリーする

*なお他の種目については従来通りの実施と考えます。